

NEWSLETTER

四国英語教育学会

No.36

Mar. 2012

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748

鳴門教育大学 英語教育研究室内

四国英語教育学会発行

新学習指導要領の完全実施にあたって

香川県支部長 水野 康一 (香川大学)

「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」

ご存知のとおり、鴨長明『方丈記』の冒頭の一節です。表面的には変わっていないようでも、よく見ると時間の経過とともに物事は移り変わるという意味だと理解しています。

2008年に改定された新学習指導要領は「脱ゆとり教育」といわれています。一般的には「ゆとり教育」→「学力低下」→「脱ゆとり教育」といった図式で理解され、振り子の振り戻しと考える人も少なくありません。しかし、この間、「少子化」、「グローバル化」など、社会環境の変化も進行していますので、教育のあり方も10年、20年前の形に戻るといったことはないわけです。

なかでも英語教育は、他領域と比べて、こういった外的な環境変化の影響を受けやすい分野です。他教科であれば「何を教えるか」ということは比較的是っきりしていて、議論は「どう教えるか」というところに焦点が置かれているように感じます。一方、学校英語教育の場合は、その目的論すら長く議論が繰り返されているわけですから、「何をどう教えたらいいいのか」については混乱状態からいつまでも逃れられません。

しかし、逆に考えると、英語教育は「こうでなくてはならない」という考え方に支配されない分野だといえます。すなわち、ある前提や状況では否定される方法論や実践が、別の条件では合理性を持ちうるということです。新指導要領でも、高等学校の授業を英語で行うことを「基本とする」という表現で教育現場の裁量を認めていますが、一つの方法論があらゆる場面で常に最善とは限らないという考えを行間に読み取ることができます。

これは「なんでもあり」という意味ではありません。教室や生徒の状況に合わせて最適な内容と方法があると考えて、それを選ぶ最終的な責任は、むしろ現場の英語教員一人ひとりに委ねられているといえます。歴史や科学の知見と自らの実践経験とを有機的に統合し、さらには、時代の変化や社会の要請を敏感に感じ取り、常に移り変わっていく学習者のために最適を模索していくこと。これが私たちプロの英語教師に求められているのだと、指導要領改訂のたびに思い知らされます。

第 37 回 全国英語教育学会山形研究大会報告

第 37 回全国英語教育学会山形研究大会が、平成 23 年 8 月 20 日（土）、21 日（日）の両日、山形大学小白川キャンパスを会場に開催されました。今回の全国大会は、平成 23 年 3 月 31 日に勃発した東日本大震災、それに続く福島原発事故の後の開催ゆえ、同じ東北に位置する山形での大会開催が危ぶまれましたが、実行委員会の方々の強い決意のもと、「がんばろう日本、がんばろう東北」を旗印に開催されることになりました。自分自身は理事会出席のため、大会前日に山形に入りましたが、理事会の最中にかかなり大きな余震に襲われました。そのため、関東方面からの列車が運休になったり、大幅に遅れたりしたため、全国各地からの参加者の足に影響が出たようです。しかし、大会そのものは、参加者総数が 653 名、発表件数も 200 件と、これまでの全国大会に引けを取らない熱気にももった大会となり、大会実行委員会の方々の心配は杞憂に終わったようです。

今年の大会に参加して思ったことは、東北の風土がそうさせるのか、派手さはないが、ぼくとつでどことなく暖かみを感じさせる堅実な大会だったという点です。自由研究発表に大きな比重が置かれていたのもそのひとつの現れだと思われます。大会初日は午前も午後も 19 室に分かれて、それぞれ午前は 4 件、午後は 3 件の自由研究発表が設定されました。二日目の午前は 15 室に分かれ、それぞれ 4 件の自由研究発表が設定されていました。二日目の午後は、課題研究フォーラムが 4 教室に分かれて実施されましたが、その内の一つは四国英語教育学会の担当で「小学校外国語活動元年—現状と課題—」というテーマで開催されました。課題研究フォーラムと平行して、授業研究フォーラムも 2 室に分かれて実施されました。研究大会の最後を飾ったのはいつものように、「日本の英語教育の将来」という冠がついたシンポジウムで、今回は「新教育課程でのライティング指導を考える」がテーマとして設定されていました。

大会実行委員会がテーマごとに研究発表のデータベースを作成しておられますが、それによるとその他を除いた自由研究発表 139 件のうち、リーディングが 31 件で最も多く、語彙 (20 件)、文法 (19 件)、ライティング (17 件)、学習者要因 (15 件)、早期英語教育 (14 件)、スピーキング (10 件)、CALL (7 件)、リスニング (6 件) と続いています。四技能に関する発表が合わせて 64 件 (46%) で、言語材料 (語彙・文法) が 39 件 (28%) となっています。これらが現在の英語教育研究の大きな柱を形成していると言えるでしょう。ただ、早期英語教育や CALL などはその分野の専門学会もあるので、少なめになっているとも考えられます。

以前の学会では司会者が 2 名張り付いて、質疑応答の交通整理をする時期もありましたが、発表数が飛躍的に多くなったせいも、今では発表者自身が司会者の代わりをする形になっています。本学会も国際学会に近い形になってきました。米沢牛や芋煮の郷土料理に舌鼓をうちながら、躍動感あふれる花笠踊りの実演を間近に見ることができた懇親会も楽しい思い出となりました。大会実行委員会の方々の行き届いた運営ぶりは 2 年後に開催される徳島研究大会を開催する者にとって大いに参考になりました。

(鳴門教育大学 伊東治己)

2011 年度(平成 23 年度) 四国英語教育学会理事会・総会報告

≪理事会報告≫

2011 (平成 23) 年 6 月 25 日(土), 標記理事会が松山大学において開かれ下記の事項が審議された。

○議 事

議題 1. 役員改選について

新副会長に、愛媛県支部の松本達也理事と香川県支部の水野康一理事が全会一致で承認された。なお、本学会会則第 9 条に「副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代行する。」とあるが、3 名の副会長のうち次期会長が会長を代行することが承認された。また、新理事として柳原一嗣氏 (愛媛県立新居浜東高等学校), 上萩琴美氏 (石井町立石井中学校), 竹内陽子氏 (徳島市立新町小学校) の就任が承認された。

議題 2. 2010 年度 (平成 22 年度) 会務・決算報告並びに会計監査報告について

2010 年度会務報告並びに下記の会計決算報告・同監査報告があり、承認された。

< 収 入 >

前年度繰越金	1,400,826
会費振込	371,000
全英教より	81,901
紀要掲載料	14,000
全英教会費	114,000
その他	0
合計	1,981,727

< 支 出 >

香川研究大会補助金	50,000
印刷費	303,660
通信費	67,415
紀要査読料	28,000
全英教役員会出席補助	40,000
全英教会費	110,420
雑費・その他	58,520
諸交通費	85,000
予備費 (次年度繰越金)	1,238,712
合計	1,981,727

議題 3. 2011 年度 (平成 23 年度) 会務・予算案について

2011 年度会務並びに予算案が事務局より提示され、一部修正の上、次の通り承認された。

< 収 入 >

前年度繰越金	1,238,712
会費振込	420,000
全英教より事務謝金等補助	50,000
紀要掲載料	35,000
雑収入 (紀要販売, 全英教よりの交通費・補助金, 等)	50,000
その他 (全英教学会費預金)	112,000
合計	1,905,712

< 支 出 >

松山研究大会補助金	50,000
印刷費	200,000
通信費	80,000
雑費	100,000
全英教役員会出席補助	120,000
紀要査読料	42,000
諸交通費補助	150,000
予備費 (次年度繰越金)	1,047,712
全英教会費	116,000
合計	1,905,712

議題4. 四国英語教育学会 2012年度(平成24年度) 第24回 研究大会について

次年度の研究大会を愛媛県支部の担当で、6月23日(土)、24日(日)に高知大学朝倉キャンパスにて開催することを確認した。

議題5. 各県支部単位での事業の実施について

平成24(2012)年2月11、12日に鳴門市で開催の全国英語活動実践研究大会を四国英語教育学会の後援とすることが承認された。

議題6. NEWSLETTER, No.35の執筆分担について

事務局よりNo.36の執筆分担が提案され、下記のとおり了承された。締め切りは、例年どおりの分量によって、1月末までに事務局宛てに送付とした。なお、四国英語教育学会の大会報告は開催県以外の支部が担当することが確認された。

巻頭言(香川)、全英教大会報告(徳島)、四英教理事会・総会報告(事務局)、四英教大会報告(徳島)、四英教次回大会案内(高知)、全英教大会案内(事務局)、編集後記(事務局)

議題7. 紀要編集委員会報告

紀要編集委員長より、①『紀要』第31号への投稿論文の厳正な審査結果と、②平成24年度以降の編集委員(香川:水野康一・岩中貴裕、徳島:古田八恵・兼重昇、愛媛:池野修・寺嶋健史、高知:今井典子・五百蔵高浩)について報告された。また、委員の互選による新委員長の決定、および、委員長と委員の任期について細則のとおり確認された(第3条 委員長:任期2年で2期、第4条 委員:任期2年で2期)。

議題8. 全国英語教育学会での役割分担等

平成26(2014)年に四国で開催される全国英語教育学会を徳島で実施すること、および、課題研究フォーラムと授業研究フォーラムの今後の担当について以下のとおり承認された。

平成23(2011)年度課題研究フォーラムB (徳島県支部が担当)

平成24(2012)年度課題研究フォーラムD (徳島県支部が担当)

平成25(2013)年度(1年)授業研究フォーラムB (高知県支部が担当)

なお、平成22(2010)年度に課題研究フォーラムAを愛媛県支部が担当したこと、発表者全員が四国英語教育学会会員である必要はないこと、が確認された。また、紀要編集副委員長を水野康一理事が、紀要編集委員を那須恒夫理事、村端五郎理事(あるいは伊東治己会長)が担当することが了承された。

その他

事務局長から、後日、第1回理事会の議事録(案)を理事あてに電子メール添付で発送するので、確認のうえ、修正が必要な点があれば連絡をするよう依頼があった。

《総会報告》

2011年(平成23年)6月25日(日)、標記総会が松山大学において開かれ、下記の事項が審議された。

○議 事

議題1. 平成23年度(2011年度) 役員改選について

新副会長として愛媛県支部の松本達也理事と香川県支部の水野康一理事が、新理事として柳原一嗣氏(愛媛県立新居浜東高等学校)、上萩琴美氏(石井町立石井中学校)、竹

内陽子氏（徳島市立新町小学校）の就任が承認された。

議題2. 2010年度（平成22年度）会務・決算報告並びに会計監査報告について

事務局より平成22年度会務・会計決算報告および会計監査報告が行なわれ、承認された。

議題3. 2011年度（平成23年度）会務・予算案について

事務局より平成23年度会務・予算案が提示され、承認された。

議題4. 2012年度（平成24年度）四国英語教育学会 第24回 研究大会について

次年度の研究大会を高知県支部の担当で、6月23日（土）、24日（日）に高知大学朝倉キャンパスにて開催することが報告された。

議題5. 紀要編集委員会報告

『紀要』第31号への投稿論文について厳正に審査し、掲載論文が決定したことが報告された。

第23回 四国英語教育学会松山研究大会報告

第23回四国英語教育学会松山研究大会は松山大学を会場に開催されました。2011年6月25日（土）に理事会と懇親会が行なわれ、翌26日（日）の午前に研究発表会、午後にはシンポジウムが行なわれました。研究発表会は2つの会場で、それぞれ5件、4件の発表がありました。研究発表のテーマは多様性に富み、題目と発表者は次のとおりです。

会場1 司会 愛媛大学・池野修先生

- ・ ニーズ分析と学習実態に基づいた英語授業実践報告—学生の情意面の変化と多読活動実践を中心に—（香川高等専門学校・藤井数馬先生）
- ・ 英語教育研究の場としての工業高等専門学校の利点について：メタ英語教育的考察（香川高等専門学校・森和憲先生，同・藤井数馬先生）
- ・ 中学校英語授業におけるフォニックス指導の実践（八幡浜市立八代中学校・武田千代城先生）
- ・ フィンランドの学校英語教育の有効性とその要因（鳴門教育大学・伊東治己先生）
- ・ ティームティーチングにおける生徒の意欲を喚起する授業研究（愛媛県立松山北高等学校・川中亜紀子先生）

会場2 司会 愛媛大学附属高等学校・河野極先生

- ・ 高校生による英作文における主語選択と文法性の関係に関する研究（鳴門教育大学大学院・福島知津子先生）
- ・ 比較に基づく構文 *not so much A as / but B* の意味と機能—Corpus-Driven Approach に基づく—（四国大学・古田八恵先生）
- ・ 地域に根ざした中学生学習必須語彙リストの作成（土佐町立土佐町中学校・山中由香先生，高知県教育委員会・山田憲昭先生，高知工科大学・長崎政浩先生）
- ・ 英語の語順意識を育てる試み—中学校における実践から—（上島町立弓削中学校・前神るな先生，鳴門教育大学・山森直人）

午後のシンポジウムは「英語教師による実践的研究のあり方」と題し、池野修先生（愛媛大学）の司会のもと行なわれました。まず池野先生が「英語教育実践的研究に求められる条件」と題して提案し、金森強先生（松山大学）が「実践的研究における理論的知識の重要性」、長崎政浩先生（高知工科大学）が「英語教師が日常の中で成長するというこゝろそのよこびと苦しみ」、そして宮内朋子先生（愛媛県立東温高等学校）が「英語教師による実践的研究のあり方—アクション・リサーチ経験者から見た実践的研究の意義」と題する提案を行ないました。先生方それぞれの立場からのお話はとても興味深く、実践的研究の意義や可能性、具体的な事例とともに課題が共有され、貴重な情報を得ることができました。今後さらに検討の余地があるテーマであると感じました。（鳴門教育大学 山森直人）

第24回 四国英語教育学会高知研究大会案内

標記の研究大会を下記の要領で開催いたします。多数の方々にご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

期 日： 2012年（平成24年） 6月23日（土）理事会・懇親会
6月24日（日）研究発表会・総会等

会 場： 高知大学朝倉キャンパス総合研究棟
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号
TEL: 088-825-2630（那須研究室）

参加費： 会員無料・非会員1,000円 ただし、学生（学部生・大学院生）は500円

大会事務局： 〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 那須研究室
第24回四国英語教育学会高知研究大会事務局
TEL: 088-825-2630 FAX: 088-844-8453
E-mail: nasu@kochi-u.ac.jp

研究発表申込締切：2012年（平成24年）4月28日（金）必着

研究発表をされる方は、学会ホームページより所定の申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、Eメール（添付ファイル）または郵送にて、上記事務局までにお申し込みください。発表時間20分、質疑応答10分を予定しています。

発表要旨提出締切：2012年（平成24年）5月31日（木）必着

発表要旨については、申し込みのあった発表予定者に書式を別途ご案内しますので、それにしたがって作成し、期日までにEメール（添付ファイル）または郵送にて事務局にお送りください。

大会参加申込：2012年（平成24年）5月31日（木）までに、学会ホームページより所定の申込用紙をダウンロードし、必要事項を記入のうえ、Eメール（添付ファイル）または郵送にて事務局にお送りください。なお、当日参加も可能です。

その他：

（1）詳しい大会案内は大会開催1か月前までにお送りいたします。また、学会ホームページにも掲載いたします。

- (2) 紀要編集委員会 日時：2012年（平成24年）6月23日（土）13:00 - 15:00
(3) 理事会 日時：2012年（平成24年）6月23日（土）15:30 - 17:30
(4) 懇親会 日時：2012年（平成24年）6月23日（土）18:30 - 20:30

会場：高知大学朝倉キャンパス学生会館（予定）

会費：4,000 - 5,000 円程度

会員であればどなたでもご参加いただけます。

第36回 全国英語教育学会大阪研究大会(案)

日 時：2012年（平成24年）8月4日（土）、5日（日）

場 所：愛知学院大学（大会ウェブサイト：<http://www.jasele2012aichi.jp/>）

日 程：研究発表の申し込みの締切りや申し込み方法等の詳細は、2012年（平成24年）4月上旬頃に全国英語教育学会ホームページに提示されると思われます。大会案内は5月頃、四国英語教育学会会員の皆様へ郵送する予定です。

紀要編集委員会より

◆『紀要』第32号原稿募集中

四国英語教育学会『紀要』第32号への投稿締切りは4月20日（金）必着となっております。第31号巻末に収載の執筆要領および学会ホームページの投稿規定に従い、奮ってご応募ください。

『紀要』第32号原稿送付先（編集委員会事務局）

〒760-8523 高松市幸町2-1

香川大学経済学部 水野 康一 e-mail: mizuno@ec.kagawa-u.ac.jp

編 集 後 記

2011年度より本学会の事務局が愛媛から徳島へ移りました。2010年度までの4年間、学会運営の重責を担われた松本達也先生（前会長）と寺嶋健史先生（前事務局長）に心より感謝の意を表します。新体制後も引き続き両先生から暖かいご支援をいただくことができ、今なんとか初年度を終えようとしています。お陰さまで事務局業務の全体を把握できたように感じています。今後、事務局の運営を通して、微力ながら、四国の英語教育を盛り上げていきたいと考えております。まずは研究大会が6月に高知で開催されますので、多くの会員の皆さまの研究発表、参加をお待ちしております。

会員の皆さま、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

（事務局 山森直人）